

コラム14：私の農業

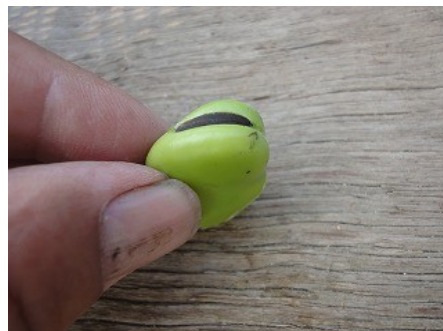
農業というのは、時にひどく楽しく、時にひどく寂しく、ときにひどく疲れますね。収穫の喜びや物を作る楽しみもありますが、仕事もほとんどが一人だけの作業ですし、他の人間との会話や触れ合いが少なくなる、という側面もあるせいでしょうか。定年後は「毎日が日曜日」どころか「毎日が仕事日」になってしまい、会社にいる時のような生活の節目というのがなくなってしまうんですね。静かな時間の流れを楽しむーそれが農業というものかもしれません。

私にとって農業のメイン商品であるイチゴ栽培は5月中にて、ほぼ出荷終了しました。7月に入った今でも、毎朝少しばかり、それもとて不細工なイチゴが取れるものですから、「これはすごい甘い」「これは味がしない」などと言って、妻と試食会をしています。この時期のものは、美味いか、まずいか、味が極端ですね。もうそろそろ根こそぎ刈り取ってしまわなくてはいけない時期なのですが・・・。



それにしても、4月から5月にかけて今年はよく出しました。2月の終わりから3月にかけてのどん底状態を、JAイチゴ研究会の先生の指導で、不要な株と花芽を除去して作り直すことで、なんとか復活させることができました。春のイチゴは、冬場に比べると糖度が落ち、鮮度も早く落ちるのです。取れたてイチゴを、その日に食べてもらうために、早朝5時半から、ほとんど毎日イチゴの出荷作業です。多い時は出荷用が10パック以上もあり、自宅デザート用とジャム用がどっさり残りましたね。

家の周りの畑でも、いろいろと農業をやっています。こちらは、長年家庭菜園をやってきた母の知恵と経験を借りているのですが、自分で食べたり、近所におすそ分けする程度の規模ですね。今は春取りの作物が小松菜、サラダ豆、ソラマメの順に終わり、5月に玉ねぎ、6月にジャガイモの収穫が終了してほっと一段落、今はキュウリ、トマト、ナスといった夏野菜がなり始めたところですね。



とくに私のお気に入り、ソラマメの栽培で、これは前の年の実を種として冷蔵庫に保管しておいて、それを10月の初めに、一つずつ土に埋め込んでいくのです。そのあとは軽く土をかけてお

き、ほとんど放置状態で水もやりません。そのあとやることと言えば、1月に寒肥、3月に脇芽欠きと肥料、そして丈が伸びてきたところで支柱たて、というぐらいです。これで、5月の終わりには、とびきり新鮮な「麦酒のつまみ」が食べられます。私の大好物ですね。そうそう、実になる前に茎が伸びてきたら、一度アブラムシの消毒をした方がいいでしょう。

これから収穫を一番期待できるのはゴーヤですね。去年はポット苗を二つ植えただけでしたが、ものすごい生育状態で、8月の終わり頃の最盛期には、大きなかごに山盛り取れたんですよ。妻が親戚、近所、知人に配り歩いて、なんとか捌かすことができましたが、今年は去年の3倍の苗を3か所に植えましたからね。無料配布が限界になったら、地元の直売所にでも出すしかないでしょう。おっと！早くも今年の1番手のゴーヤが、今日初めて姿を見せましたよ。



「イチゴのおすそ分けは、皆喜んでくれるんじやが、ゴーヤは好き嫌いがあるけえのう。誰にあげてもええいうもんでもないけえ、いたいしいよのう」

(12・7・11)